

要点

- ① すなわち・つまり：前文を言い換えたり、要約し（まとめ）たりする。
- ② なぜなら：前文の理由をつけ加える。
- ③ だって：言いわけや相手に対する反対理由を述べる。
- ④ ただ・ただし：例外や条件などをつけ加える。
- ⑤ ちなみに：前のことさらに関連したことをついでにつけ加える。
- ⑥ もっとも・とはいえ：前のことさらに反することをつけ加える。

【例文】

- ① そこには、母のお兄さん、つまりおじさんが農業をして暮らしている。
- ② 心のこもったあいさつというのは、とても大切なものだ。なぜならそれは、人間関係をスムーズにする潤滑油じゆんかつゆのようなものだからだ。
- ③ 私は裁縫さいほうができないの。だって、だれも教えてくれないんだもの。
- ④ 本気なら応援しよう。ただし、いいかげんな気持ちならやめておけ。
- ⑤ 今でも、こうした風習が残っている地域があります。ちなみに、私の故郷では、今も正月に獅子舞ししまが家々をまわって歩きます。
- ⑥ 生徒は制服に反対だ。もっとも、全員がそうだというのではない。

※潤滑油：機械などのまさつを防ぎ、なめらかに動かすための油分。

風習：習慣。



練習 1

次の文章中のすべての接続語を、で囲みなさい。また、その中に説明・補足の接続語があれば（ ）に書きなさい。

欧米にも我々のような社会生活を営むうえでの「常識」というのは当然ある。そしてそれは日本人の「常識」としばしば食い違うのもおもしろい。たとえば、私があるアメリカ人に大変世話になって、その次にその人の妹に会った。彼にはとても世話になったのでよろしく伝えてください、と頼んだ。日本人なら至極あたり前のことだ。ところがその妹はつっけんどんに、私と兄とは別々の人間で関係ない。そのようなことを頼まれるのは迷惑なことだ、と言うのでびっくりした。アメリカ人にとってはそんなことを言われるのは、常識外れということらしい。私はつくづく難しいものだと思った。

「郷に入れば郷に従え」という。つまり、「常識」というのは、そのくらい地域や家庭によって違う、ということだ。

説明・補足（

（金田一春彦『日本語を反省してみませんか』より）



「すなわち」「つまり」のあとが大切！

「すなわち」「つまり」には、今まで述べてきたことを要約する働きがある。そう、だからそのあとには筆者が最も言いたいことが、かくされていることが多い。

【例】 いろいろと君の言い訳をたくさん聞いてきたが、つまり君は、こう言いたいんだな、「自分は悪くない。」と。